

陸連時報 第三

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

2013

3

月号
平成25年

新たなスタートを迎えて

専務理事 尾 縣 貢



2012年の日本は、オリンピック一色に染まりました。それぞれの競技の予選会で出場権をかけて競技するアスリートの姿に国民は一喜一憂し、オリンピック大会本番で日の丸を胸に戦う姿には熱狂的なエールを送りました。

そして過去最多のメダルを獲得し凱旋した選手団に対して心からの賛辞を送りました。

言うまでもなく、オリンピックはスポーツの頂点にある一握りのアスリートの集いです。しかし、世界中が熱狂するイベントでもあり、その影響力は果てしなく大きなものです。トップアスリートの活躍は、それに続くアスリートの目標となり、強さの継承を生み出すエネルギーとなります。また、中学生、高校生アスリートのあこがれの対象になったり、陸上競技を知らない子どもたちの陸上競技を始めるきっかけにもなり、次世代のアスリートを育むことにもつながります。

またスター選手が出現することにより、多くの観客が競技場に足を運んでくれたり、テレビや新聞、インターネットを通して陸上競技に興味を示す人も増えてきます。こういったアスリートを取り巻く世界が活況になることが、陸上競技の地位向上にも貢献します。

このようにオリンピックは偉大なる力を持っています。そこで本連盟としてもオリンピックでの成功を最大の目標に置き、種々の活動を推進していきたいと考え、ロンドンオリンピック後すぐに4年後のリオデジャネイロに向けて新たなスタートを切りました。そして、東京開催の可能性のある2020年のオリンピックに向けても歩み始めています。

リオデジャネイロに向けて

昨年9月の理事会で原田康弘氏を強化委員長に選出し、組織の改編をした後、11月からは新たな強化委員会が発足しました。現在、強化委員会を中心に4年後のリオデジャネイロ、そして2020年に向けての強化・育成の中・長期計画の作成を急いでいます。

オリンピックで成功を収めるためには、果たすべき二つの目標があります。一つ目は、世界的なレベルにあるジュニアをオリンピックや世界選手権で活躍できる選手に育てることです。そのためには、ジュニアからシニアまで一貫した育成・強化が可能となる仕組みを再構築する必要があります。もう一つは、マラソンの日本の復活です。マラソンは、圧倒的な人気を誇り、常に国民から大きな期待がかかる種目でもあります。ケニア、エチオピアなどのアフリカ勢の競技力が強大であるとは言え、日本人にも戦う余地は十分にあります。マラソン再建を図るべく、実業団連合

や学生連合にも協力を要請しながら思い切った強化を推進していきます。

連携の必要性

先にあげたトップアスリートの強化を支えるのが、加盟団体や協力団体の普及・育成・強化の活動です。特に加盟団体である都道府県陸協は、小学生から高校生を主たる対象として、陸上競技に関する一切の活動を競技者の最も身近なところで支えています。本連盟としても、大切な役割を果たしている加盟団体との連携をより一層強いものにするため、地域の実状をリサーチしたり、話し合いをする機会を増やしていきたいと考えています。

当然ながら本連盟の全ての委員会との連携も重要となってきます。中でも医事・科学委員会との連携は直接的なサポートになります。今後は、これまでの医事・科学の活動のなかでも、現場での課題解決につながるようなテラーメイド型の調査・研究に重点を置く必要があると言えます。これらの活動に関しては、国立スポーツ科学センター（JISS）との連携が重要であり、JISSに隣接している味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素NTC）を強化活動の拠点としていく考えです。

ランニング登録への取り組み

今年から本連盟が取り組む重大な課題があります。それは、長年にわたり検討を続けてきた市民ランナーの登録制度の導入です。

近年の空前のランニングブームで、ランニング人口は、800万人にもものぼると言われています。多くの人が各々の目標を持ち、ランニングを楽しむことは素晴らしいことではあります。しかし、一方で、トレーニングを積むことなくレースに出場したり、負担となるかぶり物を身に着けて走ったりと、自らの身を危険な状況に置くランナーも多く見られます。ランニングを一過性のブームとして終わらせるのではなく、生涯の友に定着させることにより、スポーツ文化までに高めていきたいものです。そのためには、「ゴールまで安全に走りぬく」「自己の目標を達成する」といったランナーの願いや思いが実現できるように、登録者に対して多面からのサポートを行っていくことが本連盟の使命であると考えます。

現行の登録制度に並行して、このランニング登録を来年度からスタートいたしますので、その普及に関してのご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、2013年が日本の陸上競技界の飛躍の年になりますよう皆様のご協力をお願い申し上げます。

2013年シーズンに向けての抱負

理事・強化委員長 原田 康弘



はじめに

2013年を迎え、昨年11月1日にスタートした新強化委員会も、新しい組織として順調に走りだした。リオデジャネイロオリンピックに向けての本当のスタートの年でもある今年は、8月に世界選手権（モスクワ）、7月にアジア選手権（チェンナイ）、10月には東アジア競技大会（天津）と数多くの国際大会が行われることから、多くの選手には、国際経験の場を最大限に生かして積極的にトライしてくれることを期待したい。

世界選手権（モスクワ）に向けての現状と取り組み

世界選手権に向けては、各種目での参加標準記録が上がっていることから、厳しい戦いになることを予想している。その中でも来年度から強化競技者制度の改定によって、世界大会でメダル獲得に近い位置にある競技者をゴールドアスリート、8位入賞に近い位置にある競技者をシルバーアスリートに指定し、重点強化を図る。ゴールドアスリートには室伏広治（男子ハンマー投）、シルバーアスリートには岸本鷹幸（男子400mH）、ディーン元気（男子やり投）、中本健太郎（男子マラソン）、森岡紘一郎（男子競歩）、福土加代子（女子長距離）、新谷仁美（女子長距離）、瀨瀬真寿美（女子競歩）の計8名を指定し、この強化競技者たちには世界選手権の代表権を勝ち取り、世界の舞台でのメダル及び入賞を期待したい。

また、種目としてはロンドンオリンピックで5位に入賞した男子4×100mリレーや、重点強化を図る男女マラソンにも、リオデジャネイロに向けた第一歩として大いに期待したい。今大会はオリンピックの翌年の大会でもあるため、ロンドンオリンピックを戦ったベテランと、リオデジャネイロでの活躍を目指す若手との融合がどのような形となって、チームジャパンとしての力となるかは楽しみな部分でもある。また、今年の世界選手権前には、味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素NTC）で日本代表選手の強化合宿を計画しており、チームジャパンとして種目間交流を行い、コーチ・選手の一体感を図ると共に、世界選手権に関する情報共有や、万全の対策・準備を日本で整える新しい試みをもって大会に臨みたい。

但し、一部のブロックや選手については事前にヨーロッパ転戦や海外合宿を実施し、直接モスクワ入りすることも考えられる。モスクワで代表選手がベストパフォーマンスを発揮するために必要な手段を検討していきたい。

アジア選手権・東アジア競技大会に向けて

世界選手権の前哨戦となるのが、7月に開催されるアジア選手権である。アジアでの競技力の位置を認識し、いかにアジアの中で戦うことができるかを知る上では重要な国際大会となる。前回の神戸アジア選手権の成績を上回る活躍を期待したいが、確実にメダルが取れ、最低でも6位に入賞できる実力を持っている競技者を中心に派遣し、アジアで戦える集団として、密度の高いチームジャパンを編成して臨みたい。また、リオデジャネイロオリンピックに向けた強化を考えれば、U23の若い競技者が代表権を勝ち取ることを大いに期待したい。東アジア競技大会派遣についても、U23の競技者を中心に、国際大会の経験を最大限に活用し、リオデジャネイロに向けての戦略的なパスウェイのスタートの大会として位置づけたい。

今後の取り組み

リオデジャネイロオリンピックに向けての中・長期的な強化戦略プランとして、U23の強化が重要になる。強化育成部長の山崎副委員長との連携で、2010年の世界ジュニア選手権でメダルを獲得した飯塚翔太（男子短距離）、ディーン元気（男子やり投）、安部孝駿（男子400mH）、戸邊直人（男子走高跳）を中心に山縣亮太（男子短距離）、西塔拓己（男子20km競歩）、新井涼平（男子やり投）、山本聖途（男子棒高跳）、宮脇千博、大迫傑、村澤明伸、窪田忍（以上男子長距離）などの若手競技者を「リオデジャネイロオリンピック育成競技者」として位置づけ、これから約3年間かけて重要な戦力として育成するための強化プランを計画する。その為にも、対象競技者の専任コーチとの密なる連携と情報の共有を図っていきたい。

マラソン強化についても、マラソンへの意識を若い競技者に持ってもらうために、3月に男子長距離・マラソン合宿を実業団と学生と合同で実施予定である。選手また指導者として世界と戦ってきた宗猛男子中長距離・マラソン部長のマラソンに対する考え方を選手・指導者と共有することにより、リオデジャネイロオリンピックに向けたマラソン強化の方向性を示す第一歩として重要な合宿になると確信している。

女子マラソンでは、トラック種目で世界を席卷するアフリカ勢のトップアスリートがマラソンへ転向することが予想され、女子マラソンのレベルは更に上がるであろう。それに立ち向かうために、独自の指導法で世界と戦ってきた指導者の指導法を現在の指導者と共有し、リオデジャネイロで世界と戦うために到達しなければならないレベルを定め、強化を進めていきたい。2016年に世界と戦える競技者の育成の為にも、今シーズン新しいスターが生まれることを期待したい。

また、各委員会との連携強化も重要となる。今回の組織改正から、各ブロックに科学スタッフを配置し、今まで以上に科学委員会と連携を進展させ、競技者の競技力向上につながる情報の有効なフィードバックを目指し、測定・合宿や競技会などの現場での専門的なサポートを充実させたい。

情報戦略についても、情報部による日本の強化方針策定のため強化関連情報の収集にとどまらず、事前合宿地の情報、海外強化拠点、各国の戦略プラン、ライバル国の情報など、競技者・指導者にとって重要な情報を発信する為の機能を高めたい。

また、北京オリンピックの課題から、ロンドンオリンピックまでに試行錯誤を繰り返して構築された代表選手の体調管理システムについても、更に機能を高めるために医事委員会とも連携して、競技者に対するサポート体制の更なる充実を図りたい。リオデジャネイロオリンピックで戦うための「チームジャパン」を作り上げる為にも、強化・医事・科学・情報などが一体となり、競技者をサポートしていくプロジェクトチームができるように今後取り組んでいきたい。

最後に

強化が新体制になり、期待している方々がいることを親身に感じております。しかし、強化は促成栽培では実を結びません。まず目の前の課題を一つひとつクリアして、今は小さな波かもしれませんが、毎年毎年、その波を大きくしてリオデジャネイロオリンピックでは、皆様の期待に応えられる強化委員会になるよう頑張っています。今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2013年シーズンに向けての抱負

強化委員会

【トラック・フィールド部門】

総括：強化委員長 原田康弘

はじめに

2012年のオリンピックイヤーを終え、リオデジャネイロオリンピックに向けての新たなスタートの年を迎えた。2013年度の最重要大会は、8月に開催される世界選手権（モスクワ）であるが、7月にアジア選手権（チュンナイ）、10月に東アジア競技大会（天津）と多くの国際大会もあり、ロンドンオリンピックを戦ったベテラン競技者と共に、次世代を担う多くの若い選手が代表として経験できるよう大いに期待したい。しかし、世界選手権に向けては、現状のトラック・フィールドの選手層をみると非常に厳しい状況である。一部の種目を除き昨年10月1日から参加標準記録の有効期間に入ったが、秋のシーズンでは参加標準記録Aを突破した選手が男子400mHの野澤啓佑（早稲田大）1名で、参加標準記録Bを突破したのが男子100mの桐生祥秀（洛南高）、男子棒高跳の山本聖途（中京大）、女子やり投の海老原有希（スズキ浜松AC）の3名だけである。2013年シーズンは、早々からの標準記録突破を目指してほしい。

トラック種目

世界選手権でのトラック種目として期待できる種目は、男子4×100mリレーではないだろうか。ロンドンオリンピックでも5位に入賞し、北京オリンピックでの銅メダル獲得後もベルリン世界選手権、ロンドンオリンピックと決勝進出し、入賞していることから大いに期待できる種目である。高平慎士（富士通）、江里口匡史（大阪ガス）をはじめ、2010世界ジュニア選手権200mで金メダルを獲得した飯塚翔太（中央大）、ロンドンで100m準決勝まで進出した山縣亮太（慶應義塾大）、世界ユース100mで入賞している九鬼巧（早稲田大）、大瀬戸一馬（小倉東高）、100mで世界ユース最高をマークした桐生祥秀など、若手の競技者が順調に伸びていることから、一貫した指導が確実に実っていることがうかがえ、非常に楽しみである。また、男子400mHも十分期待できる。48秒41の自己記録を持つ岸本鷹幸（法政大）を中心に、A標準を突破している野澤啓佑、世界ジュニアで銅メダル獲得している安部孝駿（中京大）、館野哲也（中央大）など大学生も確実に実力をつけ、タレント的にも人材が豊富であり、お互いに競争意識が高まれば入賞も期待できる。

U23・U19の若い選手が各種目で実力を発揮しており、女子短距離の土井杏南（埼玉栄高）、男子の桐生祥秀など高校生の活躍も期待している。

フィールド種目

ロンドンオリンピックで銅メダルを獲得した、男子ハンマー投の室伏広治（ミズノ）が今年も現役続行することから、世界選手権においても十分メダルが狙える実力があり期待したいが、いつまでも彼に頼るわけにはいかない。その為にも、男子やり投のベテランであり、ベルリン世界選手権の銅メダリストでもある村上幸史（スズキ浜松AC）をはじめ、若手のディーン元気（早稲田大）、新井達平（国土館大）と世界的にも実力のある選手と、若手競技者の活躍に大いに期待したい。

男子棒高跳も、男子やり投と同様なことがいえる。ベテラン澤野大地（富士通）の世界のトップレベルで戦う競技者としての魂を、山本聖途（中京大）、荻田大樹（ミズノ）などの若手競技者が感じ取り、世界で戦うために必要なものを学ぶことのできる最高の環境に今はあると感じている。いろいろなアドバイスを受けながら世界で戦う為のノウハウをより一層学んでもらいたい。

また、男子走幅跳の強化も重要である。この種目は世界トップレベルの記録が伸びていないだけに、確実に8m10を跳べば入賞する可能性もある。この記録を見れば、日本選手にも十分チャンスはある。跳躍復活をかけて十分強化対策を講じ、戦略的に強化していきたい。

最後に

2013年は、多くの国際大会が開催される。リオデジャネイロで戦える可能性を感じさせる種目が、一つでも多く出てくることを期待したい。その為にも、まずはアジアでの大会を重視しなくてはならない。7月のアジア選手権、10月の東アジア競技大会は、リオデジャネイロオリンピックへの強化戦略上大きな意味を持つ大会と位置づけている。確実にメダルを獲得できる実力のある競技者も派遣することで、アジア陸上界でのリーダー格が日本であることを証明すると同時に、2014年アジア競技大会の前哨戦として戦いたい。また、リオデジャネイロオリンピックに向けた強化を考えれば、U23等の若い競技者が代表権を勝ち取り、まずはアジアという国際舞台で世界と戦うために必要なものは何かを感じてほしい。

【中距離・ロード部門】

総括：強化副委員長 酒井 勝亮

はじめに

昨年11月の強化委員会組織改革で、中距離、男子長距離、男子マラソンを統合し、男子中長距離・マラソン部が新設され、各ブロックの担当者が種目の垣根を越えて交流して様々な知見やノウハウを共用・構築する狙いでリオデジャネイロオリンピックに向け、かじが切られました。私の役割としては、リオデジャネイロオリンピックに向けた中長距離・マラソン・競歩の強化施策推進があげられますが、その土台を支える日本実業団陸上競技連合・日本学生陸上競技連合・全国高等学校体育連盟陸上競技部・日本中学校体育連盟陸上競技部との連携を深めて強化活動を推進し、結び付けることで日本陸上界の発展につながると考えております。今後この想いを忘れずに取り組んでいきたいと思っております。

目標・強化施策

日本陸上界の現状を踏まえた上で、下記の強化施策を立てました。

・男子中長距離・マラソン

- 1 ロンドンオリンピックの反省を踏まえ、海外転戦（7月～8月）とモスクワ世界選手権をリンクさせ、海外で戦う意識の高い競技者を育成する。
- 2 モスクワ世界選手権代表選手の強化支援・選手選考の見直しを実施し、世界と戦う意思を持った競技者、及び陸連の強化方針に沿った競技者を長期ビジョンに合わせ優先的に強化していく。
- 3 ジュニア・シニア競技者の合同研修会・強化合宿を実施し、意識改革をする。
- 4 若手指導者を育成することにより、競技者への影響力を高める。
- 5 中距離・長距離・マラソンの垣根を越えた強化システムを構築することにより世界で戦える競技者育成に結びつける。
- 6 種目を越えた転向を促すことにより新たなタレント発掘に努める。
- 7 医事・科学委員会との連携により医科学データの収集蓄積有効活用につなげる。
- 8 味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素NTC）及び国立スポーツ科学センター（JISS）を拠点化・有効活用により競技者育成に結びつける。

・女子中長距離・マラソン

- 1 「世界」を視野に入れ、チームジャパンとして少数精鋭に絞り、重点強化活動を実施し、世界選手権で戦う。
- 2 リオデジャネイロオリンピックにつながる若手競技者の育成。
- 3 5000mから10000m、10000mからマラソンへ移行できるような競技者の育成。
- 4 アテネオリンピックで金メダルを獲得した野口みずき（シスメックス）のトレーニング内容を参考にし、世界選手権代表選手を中心とした合同合宿で質の高いトレーニングを実施し、世界選

手権での成果を試す。

・競歩

- 1 ナショナルチームとして重点強化競技者を中心とする少数精鋭の強化体制を整え、国際競技力の向上と世界基準を意識した歩型と記録へ挑戦していく。
- 2 男子50km競歩:少数精鋭による年間複数回の強化合宿の実施。
- 3 男子20km競歩: U23を含めたボトムアップ型合宿の実施。
- 4 味の素NTCを拠点とした短期集中型の合宿の実施。
- 5 女子20km競歩:強化担当を中心とした強化合宿の実施。
- 6 IAAF競歩GPに積極的に参加し、世界基準で見た競技レベルの把握と国際競歩審判員による判定への適応を図る。
- 7 世界で戦える競技者育成のための短期・長期における海外合宿の実施。
- 8 強化育成部 (U19/U23) と連携を図ったブロック強化合宿の実施。

『リオデジャネイロオリンピック』に向けて

これからの3年における最大の目標がリオデジャネイロ オリンピックとなることは、言うまでもありません。女子長距離は、ロンドンオリンピックでも入賞にあと一步というレベルにあり、まだ世界と戦えるタレントを有しています。また、ロンドンオリンピック男子マラソンにおいて、中本健太郎 (安川電機) が6位入賞を果たしました。これらの事実は、まだまだ世界で戦えることを実証していると思います。しかし、その他の中距離、長距離、マラソン、競歩も世界的に高速化が進んでおり、世界レベルから大きく乖離しておりますので早期に対策を練る必要があります。生活を賭けて走るアフリカ勢とは、身体能力はもとより競技への意識面でも大きな差があります。

日本陸上競技連盟としては、強化指定競技者の意識改革を徹底させるためと、指導者・競技者が最大の力を発揮できるように種々のサポートシステムを充実させ、リオデジャネイロオリンピックに向けた強化を推し進め、指導者・競技者が力を結集してチームジャパンで『世界』を目標にして戦う準備をしていきたいと思ひます。また、オリンピック年だけをクロズアップするのではなく、そこに至る2年、3年の流れの中で課題を明確にして確実にクリアしてレベルアップしていきたいと思ひます。

最後に

上記に種々の強化施策をあげさせていただきましたが、日本長距離マラソン界にも強い時代がありました。強さの真髄 (心、技、体) は、不変であると思ひます。もう一度、その時代に実施した事を掘起して厳選し、日本の財産として見直し、再度世界に挑む想いで強化を推進していきたいと思ひます。本年度もこれまで同様ご支援・ご協力を賜りますようお願い致します。

【強化育成部】

強化副委員長・強化育成部長 山崎一彦

前ジュニア育成部長であった原田康弘氏が強化委員長に就任した。前ジュニア育成部では、原田前部長が中体連、高体連との連携を極めて盤石な協力体制に築き上げたことや、世界ジュニア選手権等の国際大会において、数多くのメダルを獲得するなど目覚ましいジュニア世代の活躍が目立った。

これらをさらに発展させるため、名称をジュニアという名を取り除き、強化育成部と変更した。かねてから、日本陸上界の弱点と指摘されるジュニア世代からシニア世代へのコネクションを円滑に行っていくための組

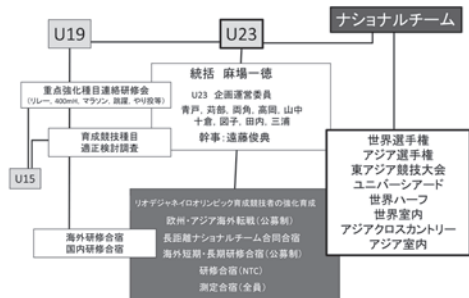


図1 強化育成部 (U23) 運営組織図と主な活動内容

織改正である。前体制では、2011年よりU21というカテゴリーを試験的に設けた。ジュニア世代に顕著な活躍を示した競技者および絶大な将来性を感じる競技者をピックアップし、資金援助やシニアで活躍するための強化事業を実施した。これまでは、シニアカテゴリーの強化競技者に入らないと強化資金は使用できなかった。若い競技者の海外進出等が、極めて有効なのは陸上競技のみならず、他競技においても周知の事実であるが、それまでの強化制度では実施が困難であった。そこで、2011年に組織化されたU21では、ディーン元気 (男子やり投) をフィンランドナショナルチームへ合流させ、個人海外合宿に派遣した。本人はこれが契機であるとコメントしている様に、そこでの合宿が技術や自信を上積みさせ、その後の大幅な自己記録更新 (84m28:日本歴代2位) につながり、ロンドンオリンピックで決勝進出を果たしたことは記憶に新しい。

U23は、この延長上にあり、リオデジャネイロオリンピックで活躍が期待できる若年層をターゲットにする。麻場一徳氏 (前女子短距離部長) を統括とし、テラーメイド型の個人強化育成策を取ることとした (図1)。現在、リオデジャネイロオリンピック育成競技者として13名を指定した。この競技者たちが世界選手権を経験する事はもちろんであるが、単年度ではなく、2年、4年周期での評価をしていきたい。該当選手が、より多く海外まで視野を広げていき、個人力を向上させながら3年後のリオデジャネイロでは主力となるよう育成していきたい。

U23は該当年齢が大学生が中心となるため、今後は更に日本学連との連携を図ることが急務である。どの団体も予算的には厳しい状況である。これらをうまく好循環させていくことが、日本陸上界の発展となるだろう。その第1弾として、今シーズンはユニバーシアードが開催される。日本学連とタイアップして、有望競技者には海外転戦からユニバーシアードへ続けていく等の措置をとっていきたい。

U19カテゴリーは、地方の厳しい指導現場でも指導成績を常時挙げている清水禎宏氏 (松江北高) をお願いし、強化体制は図2のように整えた。また、ジュニア世代の強化競技者の呼び方を「ジュニア強化指定競技者」から「オリンピック育成競技者」と名称変更した。ジュニア国際競技会等での記録・競技成績向上は、今後も積極的に図っていきたいが、その先にある人格形成や国際競技力の向上を若手競技者に意識させられるかが、育成の目的である。すでに新体制になり、2回の研修、測定およびトレーニング合宿を実施している。参加選手に抱負を聞いてみると、インターハイでの活躍や記録向上が主なジュニア競技者の単年度目標であったが、その先には、厳しいが夢のある世界がある事を意識させ育成していきたい。

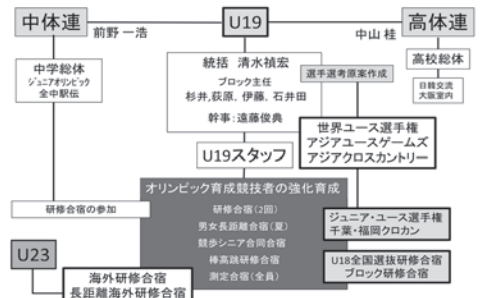


図2 強化育成部 (U19) 運営組織図と主な活動内容

強化関連情報

強化委員会

第97回日本陸上競技選手権大会

参加資格について

2013年6月7日（金）～9日（日）まで、東京都調布市・味の素スタジアムで開催の第97回日本陸上競技選手権大会の参加資格および参加標準記録について、下記の通り掲載致します。

〔参加資格〕

2013年度本連盟登録者で、下記の①から⑥のいずれかに該当し日本国籍を有する競技者（日本で生まれ育った外国籍競技者を含む）。但し、男女の5000m、10000mでは日本選手権参加標準記録Aを突破し参加申込のあった外国籍競技者のうち、出場資格記録の上位6名までをオープン参加とし

て出場を認める。

- ①2012年度第96回日本陸上競技選手権大会の優勝者（但し、その種目による）。
- ②2012年1月1日～2013年5月19日までに指定の参加標準記録Aを突破した者。
- ③地域選手権が2013年5月19日までに開催された場合は、各種目1位、2位、3位で指定の参加標準記録Bを突破した者。地域選手権が開催されていない場合は、2012年度の地域選手権各種目1位、2位、3位で指定の参加標準記録Bを突破した者。
- ④本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟強化競技者。
- ⑤開催陸上競技協会が推薦し本連盟が承認する競

〔参加標準記録〕

男子		種目	女子	
A	B		A	B
10"40	10"50	100m	11"85	12"00
20"90	21"10	200m	24"20	24"60
46"90	47"40	400m	55"00	55"80
1'50"00	1'51"30	800m	2'08"00	2'10"00
3'48"00	3'50"00	1500m	4'23"00	4'23"50
13'50"00	13'55"00	5000m	15'40"00	15'50"00
28'30"00	28'48"00	10000m	32'30"00	33'00"00
14"00	14"15	110mH / 100mH	13"80	14"00
50"80	51"10	400mH	59"00	60"20
8'50"00	8'55"00	3000mSC	10'35"00	10'50"00
2m15	2m12	走高跳	1m75	1m72
5m30	5m20	棒高跳	3m80	3m70
7m70	7m60	走幅跳	6m10	6m00
15m85	15m70	三段跳	12m70	12m50
16m00	15m80	砲丸投	14m10	14m00
50m00	49m50	円盤投	47m00	46m00
63m00	62m00	ハンマー投	54m00	53m50
72m50	71m00	やり投	52m50	51m50
7000	6850	十種競技 / 七種競技	4900	4700

〔注1〕記録の有効期間は2012年1月1日～2013年5月19日まで。

〔注2〕室内競技会の記録も有効とする。

〔注3〕400m（含ハードル）までの記録は電気時計（写真判定装置）で計測したもののみ有効。

技者。

⑥競技運営上困難が生じた場合は上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。

2013年度日本グランプリシリーズ

招待基準と招待選手について

2013年度日本グランプリシリーズについて、標準記録・日程・実施種目は、本誌P.158に掲載していますが、招待基準と招待選手を下記の通り、掲載致します。

男子

種目	招待競技者
100m	高瀬慧、山縣亮太、飯塚翔太、江里口匡史、九鬼巧、高平慎士
200m	
400m	金丸祐三、中野弘幸、東佳弘
800m	横田真人、口野武史、岡昇平
1500m	田中佳祐、井野洋、荒井輔、油布郁人
5000m	中本健太郎、宮脇千博、宇賀地強、清水大輔、長谷川裕介、大迫傑、村澤明伸、窪田忍、出口和也、竹澤健介、若松儀裕、佐藤悠基
10000m	
110mH	八幡賢司、青木悠人、西澤真徳、大室秀樹
400mH	岸本鷹幸、安部孝駿、野澤啓佑、館野哲也、中村明彦
3000mSC	山下洸、武田毅、松本葵
走高跳	戸邊直人、高張広海、衛藤昂、久保田聡、富山拓矢
棒高跳	山本聖途、荻田大樹、澤野大地
走幅跳	荒川大輔、菅井洋平、新村守
三段跳	岡部優真、長谷川大悟、梶川洋平
砲丸投	畑瀬聡、村川洋平、鈴木孝尚
円盤投	堤雄司、畑山茂雄、宮内優
ハンマー投	室伏広治、野口裕史、土井宏昭
やり投	ディーン元気、村上幸史、新井涼平
十種競技	右代啓祐、中村明彦、辻井亮太

1 招待基準

- 1) 日本陸連強化競技者（ゴールド・シルバー）
- 2) 日本陸連強化委員会指定のディベロップメントアスリート
- 3) 2012年度日本ランキング1位の競技者
- 4) 2012年度日本選手権大会3位までの入賞者
- 5) 男女の100mと200m、5000mと10000mは、両種目とも有効とする。
- 6) 上記に該当しない2012年度日本ランキング上位者の中から、日本陸連強化委員会及び主催者が特別に推薦する競技者。

2 招待競技者一覧

女子

種目	招待競技者
100m	福島千里、土井杏南、高橋萌木子、市川華葉
200m	
400m	佐藤真有、新宮美歩、蔭山愛、大木彩夏
800m	久保瑠里子、真下まなみ、須永千尋
1500m	陣内綾子、森智香子、菊池里江
5000m	福士加代子、新谷仁美、吉川美香、尾西美咲、絹川愛
10000m	
100mH	木村文子、熊谷史子、紫村仁美
400mH	久保倉里美、米田知美、三木夕莉
3000mSC	荒井悦加、中村仁美、堀江美里
走高跳	前田愛純、京谷萌子、福本幸
棒高跳	我孫子智美、住石智子、青島綾子
走幅跳	岡山沙英子、梶見咲智子、井村久美子
三段跳	吉田文代、前田和香、山根愛以、梶見咲智子
砲丸投	白井裕紀子、横溝千明、茂山千尋
円盤投	敷本愛、室伏由佳、高橋亜弓
ハンマー投	綾真澄、武川美香、佐藤若菜
やり投	海老原有希、的場葉瑠香、宮下梨沙
七種競技	赤井涼香、桐山智衣、竹原史恵

※2013年3月の理事会で、男女マラソンの強化競技者が新規で指定された場合、男女5000m・10000mの招待選手に追加される。

第14回世界陸上競技選手権大会 (2013 / モスクワ)

参加標準記録突破者および派遣設定記録突破者一覧

男子	標準記録 A / B	派遣記録	A・B・派	選手	所属	記録	年月日	大会名
100m	10.15/10.21	10.01	B	桐生 祥秀	洛南高	10.19	2012/11/03	エコパトラックゲームズ
200m	20.52/20.60	20.29						
400m	45.28/45.60	44.86						
800m	1.45.30/1.46.20	1.44.08						
1500m	3.35.00/3.37.00	3.32.98						
5000m	13.15.00/13.20.00	13.06.16						
10000m	27.40.00/28.05.00	27.28.36	B	宮脇 千博	トヨタ自動車	27.41.57	2012/09/21	全日本実業団
			B	清水 大輔	カネボウ	27.50.50	2012/04/21	兵庫リレーカーニバル
			B	村澤 明伸	東海大学	27.50.59	2012/04/29	カーニバル招待
			B	長谷川裕介	エスビー食品	27.50.64	2012/11/24	八王子ロングディスタンス
			B	宇賀地 強	コニカミノルタ	27.52.79	2012/04/29	カーニバル招待
			B	大迫 傑	早稲田大学	27.56.94	2012/05/12	ゴールデンゲームズinのべおか
			B	佐藤 悠基	日清食品グループ	27.57.07	2012/04/29	カーニバル招待
			B	松岡 佑起	大塚製薬	27.59.78	2012/09/21	全日本実業団
110mH	13.40/13.50	13.32						
400mH	49.40/49.60	48.76	A	野澤 啓佑	早稲田大学	49.15	2012/10/14	実業団・学生対抗
3000mSC	8.26.00/8.32.00	8.14.47						
20kmW	1.24.00./1.26.00.	1.20.16	A	藤澤 勇	ALSOK	1.20.38.	2012/02/19	日本選手権20km競歩
			A	西塔 拓己	東洋大学	1.21.01.	2012/02/19	日本選手権20km競歩
			A	荒井 広宙	北陸亀の井ホテル	1.21.10.	2012/02/19	日本選手権20km競歩
			A	勝木 隼人	東海大学	1.21.14.	2012/02/19	日本選手権20km競歩
			A	谷井 孝行	佐川急便	1.21.31.	2012/02/19	日本選手権20km競歩
			A	森岡紘一朗	富士通	1.21.52.	2012/02/19	日本選手権20km競歩
			A	鈴木 雄介	富士通	1.22.30.	2012/10/28	全日本競歩高島大会
			A	高橋 英輝	岩手大学	1.22.33.	2012/10/28	全日本競歩高島大会
			A	吉田 琢哉	岩手大学	1.22.42.	2012/10/28	全日本競歩高島大会
			A	山崎 勇喜	自衛隊体育学校	1.23.19.	2012/05/12	ワールドカップ競歩
			A	松崎 鷹樹	東洋大学	1.23.47.	2012/10/28	全日本競歩高島大会
50kmW	4.02.00./4.16.00.	3.45.06	A	山崎 勇喜	自衛隊体育学校	3.41.47.	2012/04/15	日本選手権50km競歩
			A	森岡紘一朗	富士通	3.43.14.	2012/08/11	ロンドン五輪
			A	谷井 孝行	佐川急便	3.43.56.	2012/04/15	日本選手権50km競歩
			A	荒井 広宙	北陸亀の井ホテル	3.47.08.	2012/10/28	全日本競歩高島大会
			A	明石 顕	東大クラブ	3.51.17.	2012/04/15	日本選手権50km競歩
			A	榎熊 敬史	陸歩クラブ	3.52.53.	2012/04/15	日本選手権50km競歩
					日本 (山縣・江里口・高平・飯塚)	38.07	2012/08/10	ロンドン五輪予選
					日本 (高瀬・金丸・石塚・中野)	3.01.04	2012/05/16	テグ国際
4×100mR	39.20							
4×400mR	3.05.00							
走高跳	2.31/2.28	2.31						
棒高跳	5.70/5.60	5.74	A	山本 聖途	中京大学	5.71	2013/02/03	日本ジュニア室内
走幅跳	8.25/8.10	8.26						
三段跳	17.20/16.85	17.27						
砲丸投	20.60/20.10	20.88						
円盤投	66.00/64.00	66.64						
ハンマー投	79.00/76.00	79.41						
やり投	83.50/81.00	84.27						
十種競技	8200/8000	8295	B	右代 啓祐	ススキ浜松 A C	8037	2012/06/03	日本選手権混成
女子	標準記録 A / B	派遣記録	A・B・派	選手	所属	記録	年月日	大会名
100m	11.28/11.36	11.09						
200m	23.05/23.30	22.62						
400m	51.55/52.35	50.59						
800m	2.00.00/2.01.50	1.58.68						
1500m	4.05.50/4.09.00	4.01.99						
5000m	15.18.00/15.24.00	15.03.24	A	新谷 仁美	ユニバーサルエンターテインメント	15.17.79	2012/10/05	岐阜国体
10000m	31.45.00/32.05.00	31.12.79	A・派	新谷 仁美	ユニバーサルエンターテインメント	30.59.19	2012/08/03	ロンドン五輪
			A・派	福士加代子	ワコール	31.10.35	2012/08/03	ロンドン五輪
			A	吉川 美香	パナソニック	31.28.71	2012/06/08	日本選手権
			B	小林祐梨子	豊田自動織機	31.51.91	2012/09/21	全日本実業団
			B	萩原 歩美	ユニクロ	32.00.73	2012/09/21	全日本実業団
100mH	12.94/13.10	12.73						
400mH	55.40/56.55	54.68						
3000mSC	9.43.00/9.48.00	9.24.33						
20kmW	1.36.00./1.38.00.	1.29.31	A・派	河瀬真寿美	大塚製薬	1.28.41.	2012/08/11	ロンドン五輪
			A	大川 久美	富士通	1.29.48.	2012/02/19	日本選手権20km競歩
			A	川崎真裕美	富士通	1.30.20.	2012/08/11	ロンドン五輪
			A	井上 麗	天満屋	1.32.43.	2012/02/19	日本選手権20km競歩
			A	岡田久美子	立教大学	1.34.27.	2012/02/19	日本選手権20km競歩
			A	前田 浩唯	立命館大学	1.35.01.	2012/03/11	全日本競歩能美大会
			A	浅田千安芸	DNP西日本	1.35.47.	2012/02/19	日本選手権20km競歩
			A	道口 愛	コモディイイダ A C	1.35.51.	2012/03/11	全日本競歩能美大会
4×100mR	44.00							
4×400mR	3.33.00							
走高跳	1.95/1.92	1.96						
棒高跳	4.60/4.50	4.63						
走幅跳	6.75/6.65	6.85						
三段跳	14.40/14.20	14.5						
砲丸投	18.30/17.20	19.16						
円盤投	62.00/59.50	63.7						
ハンマー投	72.00/69.50	73.38						
やり投	62.00/60.00	63.38	B	海老原有希	ススキ浜松 A C	60.66	2012/11/04	西日本カーニバル
七種競技	6100/5950	6346						

※所属は記録樹立当時。派遣記録は、日本陸連が定めた派遣設定記録。競歩については、日本陸連が定めた派遣条件であるA標準突破者のみを掲載

JAAFコーチ養成講習会 専門科目講習会報告

普及育成委員会 櫻田 淳也

2012年12月22日～25日の4日間の日程で、JAAFコーチ（公認コーチ）養成講習会を味の素ナショナルトレーニングセンターにて開催した。専門科目養成講習会では、集合講習40時間と自宅学習20時間が課せられる。集合講習は別表にあるように、講義、実技、指導実習と分けて行われる。講義では「バイオメカニクス」や「運動生理学」のような基礎的なものを踏まえた講義から、「陸上競技のルール」のような実際のなまでのまで幅広く行われる。実技は新体制となった強化委員会より講師を選定した。短距離、ハードル、跳躍、投てき、混成競技等、幅広く行われ、参加者も実際に体を動かし、技能を習得した。指導実習は実際に現場で指導するなかでの諸問題を、振り分けられたグループごとにディスカッションを行い、グループごとにポスター発表・プレゼン、質疑応答を行った。今回の講習会では、受講生の指導実習の取り組みが熱心で、特にディスカッションでは予定の時間を大幅に超えて、朝は講習開始前に早く集合し、夜は講習終了後に遅くまで熱心に取り組むグループが多かった。またそこから発表された内容も充実しており、受講生間の情報交換の場としても、大いに役割を果たしたのではないと思われる。

全講義終了後には検定試験が行われた。その結果、受講希望者数69名中、合格者は47名であった（欠席22名）。日本陸連では、JAAFコーチ



グループワーク発表

（公認コーチ）とJAAFジュニアコーチ（公認指導員）の新制度へ改訂して初年度の開催となった。今後も、日体協公認スポーツ指導者制度と引き続きリンクさせながら行われる。ジュニア世代への陸上競技の普及育成を図っていくなかで、公認資格取得の重要性が益々高まってくる。次回以降も各都道府県陸協から積極的に受講生の推薦をしていただくことを希望する。

専門科目講習会合格者

小林伸広、斉藤英樹、松永勝広、濱田北斗、花岡麻帆、吉田哲、佐藤嶺、宮崎利勝、星正彦、菊田明博、高田素二郎、田村勝、岸晃久、増渕貴教、井桁愛、鈴木潤、高取岳雄、高橋直朗、松本健、笹川浩司、田島直樹、鷲ノ上亮一、児玉聡、小島一大、熊谷憲、篠原克修、棚橋拓水、鈴木邦彦、嘉賀正泰、石田桂、乙部公伸、永尾和史、十倉みゆき、渡部博子、西野修二、藤川浩喜、井川正樹、原田隆司、西崎逸朗、鈴木茂正、福羅史力、高橋信年、川上裕子、末吉優子、田中真二、小田原秀樹、園原健弘



ディスカッションの様子



伊東浩司氏より実技講習を受ける受講生

JAAFコーチ講習会日程表

日程	第1日			第2日			第3日			第4日		
期日	12月22日（土）			12月23日（日）			12月24日（月）			12月25日（火）		
会場	味の素ナショナルトレーニングセンター			味の素ナショナルトレーニングセンター			味の素ナショナルトレーニングセンター			味の素ナショナルトレーニングセンター		
時間	基礎理論 実技 指導実習	科目名（時間）	講師	基礎理論 実技 指導実習	科目名（時間）	講師	基礎理論 実技 指導実習	科目名（時間）	講師	基礎理論 実技 指導実習	科目名（時間）	講師
09:00				基礎理論	陸上競技とドーピング防止（1.5時間）	山澤文裕				基礎理論	コーチングスタイル（1.5時間）	尾懸貢
10:00	指導実習	陸上競技の種目別指導（1時間）	繁田進				実技	陸上競技の種目別指導 中長距離（2時間）	榎本靖士			
11:00	基礎理論	競技者育成プログラム（一貫指導含む）（1.5時間）	繁田進	実技	陸上競技の種目別指導 競歩（2時間）	三浦康二				実技	陸上競技の種目別指導 トレーニング（3時間）	木越清信
12:00	昼食			昼食			実技	陸上競技の種目別指導 ハードル（3時間）	谷川聡	昼食		
13:00				実技	陸上競技の種目別指導 投てき（2時間）	栗山佳也	昼食					
14:00	実技	陸上競技の種目別指導 跳躍（3時間）	吉田孝久				実技	陸上競技の種目別指導 混成（2時間）	眞鍋芳明	実技	陸上競技の種目別指導（跳躍）（1時間）	木越清信
15:00				実技	陸上競技の種目別指導 短距離（3時間）	伊東浩司				指導実習	陸上競技の種目別指導（1時間）	盛田和彦
16:00	基礎理論	陸上競技のスポーツ障害（1.5時間）	鳥居俊				基礎理論	陸上競技のルール（1.5時間）	鈴木一弘	検定試験		
17:00	基礎理論	陸上競技の食事と栄養（1時間）	田口素子									岩壁達男
18:00	基礎理論	練習計画の立案（2時間）	桜井智野風	基礎理論	陸上競技の運動生理学（1.5時間）	杉田正明	基礎理論	練習計画の立案（2時間）	櫻田淳也			
19:00				基礎理論	バイオメカニクス（3時間）	榎本靖士						
20:00												
21:00												
22:00												
合計時間	基礎理論（6h） 実技（3h） 指導実習（1h）	合計10h		基礎理論（6h） 実技（7h） 指導実習（1h）	合計13h		基礎理論（3.5h） 実技（7h） 指導実習（1h）	合計10.5h		基礎理論（1.5h） 実技（4h） 指導実習（1h）	合計6.5h	

2012年度 U-15トップトレーニングキャンプ報告

普及育成委員会 舟橋昭太

- 1 主 旨 各都道府県での優秀選手を中央に集め、タレント発掘と将来的に一流選手になる為の意識付け、及び指導者に対する教育・競技者育成プログラムの啓蒙活動を行う。
- 2 主 催 日本陸上競技連盟
- 3 後 援 (公財) 日本中学校体育連盟
- 4 協 賛 株式会社ナイキジャパン
- 5 期 日 2013年1月4日(金)
～2013年1月6日(日)
- 6 練習会場 味の素ナショナルトレーニングセンター
- 7 宿泊場所 メトロポリタン
- 8 スタッフ 普及育成委員会委員長：繁田進
普及育成委員会副委員長：岩壁達男
普及育成委員会部長：渡部誠
U-15キャンプ総括：舟橋昭太
合同トレーニング担当：松田克彦
短距離ブロック担当：海老原亘(特別講師)、平山公紀
中長距離ブロック担当：井筒紫乃、佐伯徹郎
ハードルブロック担当：秋元恵美、島津勝己、長岡樹
走高跳ブロック担当：渡辺輝也、桜井

智野風
走幅跳ブロック担当：山下訓史(特別講師)、下山良成
投擲ブロック担当：松本剛史(特別講師)、岸政智、櫻田淳也

9 講 師 理論講習Ⅰ「栄養と食事」◇大畑好美・長坂聡子：普及育成委員会委員
理論講習Ⅱ「自分たちでできるアフターケアについて」◇松下美穂：医事委員会トレーナー部員
指導者講習会◇沼澤秀雄・桜井智野風・松田克彦

以上の概要でトップトレーニングキャンプも3年目を迎えた。昨年同様、味の素ナショナルトレーニングセンターで2泊3日の日程で研修合宿を開催した。

2年間の反省や要望を踏まえ、本年は種目練習を増やしたこと・指導者を中体連からお願いしたことが特徴である。理論講習も必修課題として「栄養と食事」を実施。医事委員会トレーナー部の協力を得て「自分たちでできるアフターケア」と題してもう1つ新しい講習を取り入れた。

また、引率者の方々にも講習をしてもらうため、今回は「U-15陸上競技指導者講習会」と同じ内容でハードル・跳躍・投擲の基本的な実技指導を行った。実技を伴うの



U-15トップトレーニングキャンプの参加者

で多くの方が見学になるかと心配したが積極的に身体を動かしてくれた。怪我もなく安心した。

1日目は緊張感漂う中、開講式で繁田委員長からトップトレーニングキャンプの意義や普及育成委員会の役割などが話された。その後、各都道府県の選手が自己紹介で自分たちの目標などを発表した。練習着に着替え、陸上競技実験場に場所を移し松田克彦氏による合同トレーニングを行った。1人、2人組や複数で行うなどバリエーション豊かなトレーニングを中学生に教えてくれた。夜は、必修科目の「食事と栄養」の講義、グループを作り料理カードを利用して献立の立て方を学んだ。90分くらいの時間があれば、もう少し内容に厚みが出たと思う。

2日目は記念Tシャツを着て集合写真を撮り、種目練習を開始。今回は、中学校の指導者・高校の指導者に練習の指導を一部お願いした。特別講師として短距離に海老原亘氏、走幅跳に山下訓史氏、砲丸投に松本剛史氏の3名に担当してもらい、各種目とも丁寧でわかりやすい説明で練習のバリエーションも多く、ポイントを押さえた指導を行ってくれていた。中学生も声を出し元気に練

習に取り組んでいた。種目練習後はコントロールテストを実施。今回は測定種目を精選した。やはり都道府県のトップが集まっているだけあり、パフォーマンスの高い選手も何名か出てきている。コントロールテスト後に「自分たちでできるアフターケア」の講義を医事委員会トレーナー部の松下美穂さんをお願いし、正しいストレッチの仕方・間違ったストレッチの仕方を実技中心に実験場で行った。

3日目は2日目と同じように種目練習の2回目を行った。選手同士も仲良くなり真剣な中にも笑顔がある良い雰囲気練習ができていたようである。

同じ時期に、U-19やU-23の合宿も行われており視覚的にも刺激をもらえたと思う。また、原田康弘強化委員長や山崎一彦強化副委員長も参加選手に言葉をかけてくれた。

閉講式にはU-19代表の土井杏南選手より参加者に向けてアドバイスをもらい、選手たちには刺激の多い3日間であったと思う。

日程表

	1/4 (金)	1/5 (土)	1/6 (日)
6:00		起床	起床
6:30		朝食	朝食
7:00			
7:30			
8:00		7:50ロビー集合	7:50ロビー集合
8:30		8:00ホテル出発⇒NTC (バスで移動)	8:00ホテル出発⇒NTC (バスで移動)
9:00		9:00~12:00	9:00~12:00
9:30		種目別練習 (陸上競技場・JISS実験場)	種目別練習 (陸上競技場・JISS実験場)
10:00		講師	講師
10:30		短距離: 海老原亘 中距離: 井筒紫乃	短距離: 海老原亘 中距離: 井筒紫乃
11:00		ハードル: 秋元恵美 走高跳: 渡辺輝也	ハードル: 秋元恵美 走高跳: 渡辺輝也
11:30		走幅跳: 山下訓史 砲丸投: 松本剛史	走幅跳: 山下訓史 砲丸投: 松本剛史
12:00		昼食	
12:30		12:00~13:30	12:30~閉講式・解散
13:00	参加者集合		
13:30		13:30~15:30 選手	
14:00	13:10~開講式 (研修室1234)	コントロールテスト (JISS実験場)	
14:30	主催者挨拶・スタッフ紹介	13:30~15:30 指導者	
15:00	参加者自己紹介	指導者講習会 (陸上競技場)	
15:30		講師: 松田克彦・桜井智野風・沼澤秀雄	
16:00	15:30~17:30		
16:30	合同トレーニング (JISS実験場)	16:00~18:00	
17:00	講師: 松田克彦	理論研修II (JISS実験場)	
17:30		アフターケアについて	
18:00	夕食 18:00~19:00	講師: 松下美穂	
18:30	※指導者は先にホテル移動各自食事	夕食 18:00~19:00	
19:00	19:00~20:00	※指導者は先にホテル移動各自食事	
19:30	理論研修I「栄養と食事」(研修室1234)		
20:00	講師: 大畑好美・長坂聡子	NTC出発⇒ホテル (バスで移動)	
20:30	NTC出発⇒ホテル (バスで移動)		
21:00			
21:30			
22:00	点呼・就寝準備※健康観察	点呼・就寝準備※健康観察	
22:30	消灯	消灯	

2012年度全国自転車計測員会議報告

施設用器具副委員長 平塚 和則 (IAAF/AIMS 公認道路コース計測員)

日時 2012年12月8日(土) 10:30～17:30
9日(日) 9:00～13:00
場所 東京都江東区夢の島競技場会議室・周辺コースおよび江東区役所会議室
出席者 日本陸連尾縣専務理事、施設用器具委員会委員(12名)、本部計測員・各都道府県推薦自転車計測員55名

国際陸連は2003年に世界最高記録を、そして2004年には世界記録として道路競走(歩)の記録を公認することになりました。そこで日本でも2004年4月から道路競走(歩)の日本記録を公認することにしました。国際陸連ではマラソンコースの計測は自転車により公認計測員が計測したコースでなければならないと規定しました。

日本では古くから公認制度が確立されており、マラソンコースはワイヤーにより計測を実施していましたが、国内でも自転車による計測が主流になりつつあります。

国内の自転車計測員も各都道府県に1名と義務づけし2年毎に研修会で研鑽を積んでいます。そして国際級の計測員も誕生し現在A級(国際級)3名、B級4名とアジアでも最高の計測技術を誇っています。

2年に1度のセミナー(計測員会議)も今回で9回目となり、正確なマラソンコース計測のため2日間の計測員会議を実施したものであります。

【第1日】～夢の島競技場内および周辺
(午前中に新規計測員に対する特別研修を実施した。)
開会のことば 施設用器具委員会 副委員長 平塚和則
挨拶 日本陸連 専務理事 尾縣貢
施設用器具委員会 委員長 小池一好
会 議 司会～福島B級計測員

1. 実技……指導担当～A級・B級計測員
全国から推薦された計測員を2名のペアにし、さらに全体を3班に分け、下記の実技実施要領により、A・B級計測員が指導を実施した。

(1) キャリブレーションコースの作成要領 (2) ジョーンズ・カウンター、画板の取付け要領 (3) キャリブレーションの実施 (4) コースの計測要領 (5) 計算・報告書作成

【第2日】～江東区役所会議室
2. 検定員、技術役員、自転車計測員の心構え……小池委員長
常に技術の向上と真摯な態度で検定・計測に当たっていた

だきたい。マラソンコースは正確な距離であるのがあたりまえであり、昨今はマラソンプームで全国にマラソンコースが増加している中、公認マラソンコースはどこでも同一の計測方法で実施し、正確であることが重要である。特に自転車計測員には高度な技術が要求される。ワイヤー計測との問題点もあるが、全国から推薦された計測員の皆さんは今後も課題に取り組んで研鑽に励んでいただきたい。

3. 計測員に必要な自転車の知識……桑原B級計測員・愛知
自転車計測員の心得として、自転車計測ができる体力を維持することが重要であると同時に計測に使用する自転車の知識が備わっていなければならない。

(1) カウンターの取付方法 (2) タイヤの種類と空気圧 (3) パルプの種類と空気圧 (4) ギヤについて (5) ノーパンクタイヤについて

4. 自転車計測の概要……松川A級計測員・大阪
自転車計測で最も重要なことは、キャリブレーションを安定してきちんと走ることで、信頼性の高い値を得るために納得がいくまできっちりと走る必要がある。

(1) 基本的な考え方 (2) 自転車計測の注意点 (3) 自転車の選び方と整備 (4) キャリブレーションの実際 (5) キャリブレーションの誤差と重要性 (6) コースを知りコースを走る (7) 計測の準備と報告について

5. 公道道路コース計測の留意点……苅込A級計測員・本部
(1) 実際の道路コースの計測の留意点 (2) コース取りの重要性 (3) 自転車の操作と計測距離の関係

6. 公道道路コース計測の各種事例……梶原B級計測員・福岡
(1) 大会当日の計測の留意点 (2) 大会日以外での計測の留意点 (3) 具体的な計測の事例

7. 自転車計測員の全般……平塚A級計測員・本部
自転車計測を成功させるには事前の準備をしっかりと立て、自信を持って確実にマラソンコースを計測することである。走る選手のためにどこでも同じように正確でなければならない。

(1) 申請の手順 (2) 計測の実施 (3) 計測後の報告 (4) IAAF/AIMS 認定コースでの一部変更の報告要領

8. 討論会及び質疑(福島B級計測員・本部)

9. 修了書の伝達・閉会挨拶(小池委員長)

今回出席の55名の全国自転車計測員に、小池委員長から修了書を伝達した。



全国自転車計測員会議の様子



IAAFから各国陸連等に発信される通達文書一覧

IAAF (国際陸上競技連盟) は、各種伝達事項を、サーキュラー (通達) として各国陸連をはじめ関係者に送付している。2012年に発信された全通達のタイトルは次の通りである。

このうちIAAFカウンシル会議での重要決定事項等については、陸連時報にIAAFカウンシル会議報告で掲載しているので、過去の陸連時報をご参照頂きたい。

なお、各通達番号の最初の英文字“M”は「各国陸連宛て」を示し、次の数字は通し番号、最後の数字は年を示している。

(例) 「M/01/12 IAAF世界記録リスト」は「2012年第1通目の各国陸連宛通達」であることを示す。

M/01/12	IAAF世界記録リスト	2012年1月1日
M/02/12	2012年ロンドンオリンピック 参加標準記録	2012年1月16日
M/03/12	2011年 年次報告について	2012年1月17日
M/04/12	IAAF主催競技会参加時の旅行医療保険加入について	2012年1月17日
M/05/12	ワールドアスレチックデー 2012実施について	2012年1月19日
M/06/12	第14回世界ジュニア選手権 (スペイン・バルセロナ) の案内	2012年1月26日
M/07/12	IAAF各種申請書類の提出期限について	2012年1月26日
M/08/12	IAAF主催競技会の立候補受け付けについて	2012年2月10日
M/09/12	IAAFカウンシル会議 (2012年3月12日、トルコ・イスタンブール) 決定事項と各種情報	2012年3月26日
M/10/12	IAAF競技会規則37.14とドーピング防止規則の改正について	2012年3月30日
M/11/12	第20回世界ハーフマラソン (ブルガリア・カバルナ) の案内	2012年4月3日
M/12/12	TOECS Level 1と同等のシステムについて	2012年4月4日
M/13/12	IAAF100周年記念メダルと賞状について	2012年4月4日
M/14/12	IAAF国際ユースカンフェレンス (スペイン・バルセロナ) の案内	2012年4月18日
M/15/12	IAAF競技会規則第9条、第60条、倫理規定の改正について	2012年4月27日
M/16/12	IAAF競技者代理人規定 (世界30傑対象) について	2012年4月27日
M/17/12	第48回IAAF総会 (2011年、テグ) 議事録	2012年5月14日
M/18/12	2013年モスクワ世界選手権 チームリーダー視察について	2012年6月7日
M/19/12	IAAFカウンシル会議 (2012年7月31日 / 8月10日、イギリス・ロンドン) 決定事項と各種情報	2012年8月30日
M/20/12	IAAF競技者代理人規定 (世界30傑対象) について	2012年9月5日
M/21/12	第14回世界選手権と第49回IAAF総会 (2013年8月 / モスクワ) 案内と各種情報	2012年9月13日
M/22/12	第40回世界クロスカントリー選手権 (ポーランド・ビドゴシチ、2013年3月24日) の案内	2012年10月2日
M/23/12	第49回IAAF総会 (2013年8月6日～8日 / モスクワ) の開催について	2012年12月8日
M/24/12	第14回世界選手権大会 (モスクワ) 報道申請について	2012年12月17日
M/25/12	IAAFカウンシル会議 (2012年11月22日～23日、スペイン・バルセロナ) 決定事項と各種情報	2012年12月21日
M/26/12	第49回IAAF総会 (2013年8月6日～8日 / モスクワ) について	2012年12月30日
M/27/12	2012年IAAF通達発信一覧	2012年12月30日

大会観戦ガイド

第96回日本陸上競技選手権大会男子・女子20km競歩 兼第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ) 代表選手選考競技会 第24回ジュニア選抜競歩大会

昨年は藤澤勇(ALSOK)・大利久美(富士通)が制した日本選手権20km競歩。世界陸上代表の座を懸けて、日本のトップウォーカーが集います!

▼日時: 2月17日(日)

▼コース: 兵庫・六甲アイランド甲南大学周辺コース

▼種目・スタート時刻

男子20km競歩(日本選手権)	9時50分
ジュニア男子10km競歩	8時50分
女子20km競歩(日本選手権)	10時10分
ジュニア女子5km競歩	9時00分

▼問合せ先: 一般財団法人兵庫陸上競技協会

TEL078-231-1771 /

FAX078-231-1772

▼日本陸連HP内大会ページ

[http://www.jaaf.or.jp/](http://www.jaaf.or.jp/taikai/1016/)

taikai/1016/



前回優勝を果たした大利久美(富士通)

シニア男子	10km(選考種目)	13時30分
中学女子	3人×2km	14時10分
中学男子	4人×2km	14時50分

▼テレビ放送予定:

JNN全国28局ネット

2月23日(土)

15:30~16:54

▼問合せ先: 福岡国際クロスカントリー大会事務局

TEL092-738-2180 /

FAX092-738-2243

▼日本陸連HP内大会ページ

[http://www.jaaf.or.jp/](http://www.jaaf.or.jp/taikai/1017/)

taikai/1017/



前回大会シニア男子10kmの様子

東京マラソン2013 兼第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ) 男子代表選手選考競技会

6年目を迎える東京マラソン。今年は8月にロシア・モスクワで開催される世界陸上の男子代表選手選考会を兼ねています。今年も多くのご声援をお願いします。

▼日時: 2月24日(日) 9時05分(車いす)、
9時10分(マラソン・10km) スタート

▼会場: スタート/東京都庁前

フィニッシュ/東京ビッグサイト(マラソン)、
日比谷公園(10km)

▼コース: マラソン/東京都庁~飯田橋~皇居前~日比谷~品川~銀座~日本橋~浅草雷門~築地~豊洲~東京ビッグサイト、10km/東京都庁~飯田橋~皇居前~日比谷公園

▼テレビ放送予定: フジテレビ系全国ネット

2月24日(日) 9時00分~

▼交通規制のご案内: 警視庁東京マラソン2013交通対策事務局

TEL03-3581-4321(代)

[http://www.keishicho.](http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/)

metro.tokyo.jp/

▼問合せ: 一般財団法人東京マラソン財団

TEL 03-5500-6677

▼日本陸連HP内大会ページ

[http://www.jaaf.or.jp/](http://www.jaaf.or.jp/taikai/1018/)

taikai/1018/



前回大会で日本人トップとなった藤原新

第27回福岡国際クロスカントリー大会 兼第40回世界クロスカントリー選手権 大会代表選手選考会

3月にビドコシチ(ポーランド)で開かれる世界クロカンの代表選手選考会を兼ねる福岡クロカン。クロカンの迫力をぜひ生で感じて下さい!

▼日時: 2月23日(土)

▼会場: 国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース
福岡県福岡市東区西戸崎18-25 TEL092-603-1111

▼アクセス: JR香椎線博多駅発、香椎経由、西戸崎駅下車。福岡市営渡船ベイサイドプレイス発、西戸崎港下船。西鉄バス天神発、西戸崎駅前下車。うみなかりんもち(マリゾン)発、海の中道下船

▼種目・スタート時刻

ジュニア女子	4km	11時00分
ジュニア女子	6km(選考種目)	11時20分
ジュニア男子	4km	11時50分
ジュニア男子	8km(選考種目)	12時10分
シニア女子	6km(選考種目)	12時50分

第68回びわ湖毎日マラソン大会
兼第14回世界陸上競技選手権大会 (2013 / モスクワ)
代表選手選考競技会
兼第97回日本陸上競技選手権大会男子マラソン

日本選手権男子マラソンを兼ねて行われるびわ湖毎日マラソン。男子マラソンの世界陸上代表選考会としても、熱い争いが繰り広げられます!

▼日時: 3月3日(日) 12時30分スタート
 ▼会場(スタート・フィニッシュ): 滋賀・皇子山陸上競技場

滋賀県大津市御陵町4-1 TEL077-522-7065

▼アクセス(皇子山陸上競技場): 京阪石坂線別所駅から徒歩1分またはJR湖西線西大津駅から徒歩7分

▼コース: 日本陸連公認びわ湖毎日マラソンコース(42.195km) = 皇子山陸上競技場 - 柳が崎 - 瀬田唐橋西詰 - 石山寺 - 瀬田川洗堰 - 瀬田唐橋東詰 - 県立漕艇場 - 新瀬田浄水場前折り返し - 皇子山陸上競技場

▼放送予定: 3月3日(日)

<テレビ> 12:15 ~

14:55 NHK総合

<ラジオ> 12:15 ~

14:55 NHKラジオ第1

▼問合せ先: びわ湖毎日マラソン大会事務局

TEL06-6346-8249 /

FAX06-6346-8372

▼日本陸連HP内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1019/>



前回日本人トップに入った山本亮(佐川急便)

名古屋ウィメンズマラソン2013
兼第14回世界陸上競技選手権大会 (2013 / モスクワ)
代表選手選考競技会

大型ウィメンズマラソンとして生まれ変わって2年目。女子マラソンの世界陸上代表選考会として開催します!

▼日時: 3月10日(日) 9時10分スタート

▼会場(スタート・フィニッシュ): 愛知・ナゴヤドーム

愛知県名古屋市中区大幸南1-1-1 TEL052-719-2121

▼アクセス(ナゴヤドーム): 地下鉄ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田駅」から徒歩5分、JR・名鉄「大曽根駅」から徒歩約15分

▼コース: 名古屋ウィメンズマラソンコース

▼テレビ放送予定: 東海テレビ(フジテレビ系列全国ネット)

3月10日(日) 9:00 ~ 11:50(選考レース)

▼問合せ先: マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知実行委員会事務局
 TEL052-201-1560 /
 FAX052-201-1561

▼日本陸連HP内大会ページ
<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1020/>



前回大会日本人トップの尾崎好美(第一生命)

第37回全日本競歩能美大会
兼 Asian20km Race Walking Championships in NOMI 2013
兼第14回世界陸上競技選手権大会 (2013 / モスクワ)
男子・女子20km競歩代表選手選考競技会
併催 第7回日本学生20km競歩選手権大会

アジア選手権を兼ねて開催する本大会。日本のトップウォーカーがアジアNo.1を目指してハイレベルな争いを繰り広げます。

▼日時: 3月10日(日)

▼コース: 石川県能美市・日本陸上競技連盟公認能美市営20kmコース(2.0km周回コース)

▼アクセス(石川県能美市浜小学校付近): 小松空港からタクシーで約15分。北陸本線小松駅もしくは寺井駅下車、小松駅からタクシーで約15分、寺井駅からタクシーで約5分。

▼種目・競技時間:

<男子>中学生	3km競歩	9:05
	一般・Asian20km W・学生選手権	
	20km競歩	11:25
<女子>中学生	3km競歩	9:00
	一般・Asian20km W・学生選手権	
	20km競歩	9:45

▼問合せ:

第37回全日本競歩能美大会実行委員会事務局

TEL0761-58-2273 /

FAX0761-55-8530

▼日本陸連HP内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1021/>



男子全日本20kmを制した藤澤勇(ALSOK)

JAAF 一般財団法人岡山陸上競技協会

OKAYAMA

〒700-0012 岡山市北区いずみ町 2-1-11 岡山県陸上競技場内
TEL : 086-214-3156 FAX : 086-214-3156
<http://www.tiki.ne.jp/oka-rikkyou/>

第2回晴れの国岡山駅伝競走大会を1月27日、岡山市で開催した。同駅伝は、男女の長距離、駅伝強化を狙いに昨年スタート。県内市町村が対抗形式で覇を競う。優勝チームには陸協会長杯が贈られる力の入った大会だ。

今シーズンの岡山の駅伝は、高校男女、実業団女子など、力を発揮し上位の成績を残した。しかし、都道府県対抗に関しては、女子は連続入賞記録がストップ、男子も目標に届かず大会を終え、県チームの選手層充実という課題が浮き彫りになった。

晴れの国駅伝はまだ生まれたての大会ではあるが、我々運営者は、大会で活躍した選手が、岡山県のたすきをつなぎ合い、全国の駅伝を疾駆する姿を夢見ている。

(文責：事務局長 藤岡 英陽)

JAAF 一般財団法人香川陸上競技協会

KAGAWA

〒763-0053 丸亀市金倉町 830 番地
TEL : 0877-21-5710 FAX : 0877-21-5710
<http://gold.jaic.org/jaic/member/kagawa/index.htm>

ロードシーズンも最盛期を迎えているが、本県においても各所でロードレースや駅伝大会が開催されている。2月3日には第67回香川丸亀国際ハーフマラソン大会が開催された。この号にも大会結果が掲載されていると思うが、ロンドン・オリンピックのメダリストをはじめ、国内外からトップランナーが出場を予定しており、記録にも大きな期待が寄せられている。

また、2月11日には本県でU12のJAAFアスリート発掘育成プロジェクトが開催されることとなっている。タレントの発掘とともに小学生に正しい動きを教えるいい機会になると考えている。この中から次代の陸上界を担う逸材が出てくれることを期待している。

JAAF 一般財団法人広島陸上競技協会

HIROSHIMA

〒730-0011 広島市中区基町 4-1 県立総合体育館(財)広島県体育協会内
TEL : 082-223-3256 FAX : 082-222-6991
<http://www1.ocn.ne.jp/trk34/index.htm>

天皇盃第18回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会が、皆様のご協力のもと無事終わった。今回は兵庫県が連覇。広島は、優勝を狙ってはいったが6位入賞。結果はともあれ、各都道府県の力走を目の当たりにできる広島県民は幸せである。この大会は地元広島県民が支える大会である。今年は、沿道に33万人、過去最多に並ぶ観客数であった。陸協の競技役員約540人、高校生補助員約220人、コース整理員ボランティア約2700人、警備員400人、県警は、車両48台、約340人が交通整理やレース先導をし、大会を支えた。ふるさと広場では、てんこもりのお国自慢。都道府県人会が方言いっぱいのお応援はもちろん、故郷の味をふるまう。郷土愛に満ちた大会となっている。

JAAF 一般財団法人山口陸上競技協会

YAMAGUCHI

〒753-0815 山口市維新公園 4-4 維新百年記念公園陸上競技場内
TEL : 083-920-6125 FAX : 083-920-6125
<http://yaaf.jp/>

山口国体後もジュニア選手たちが好成績をあげておりますが、普及事業についての見直しも必要と考えます。国体のため強化に重点が置かれ、やや弱くなった小中の連携を回復することと小学生の競技人口の増加を図ります。年間5つのトラックの大会とクロスカントリーを開催運営し、8月には毎年出雲市で開催の中国地区の講習会・記録会へ100人余りを参加させています。昨年創設した中国地区交流大会もいっそう充実させてまいります。イベントとしては、2月に終了した中国電力、3月9日に開催のNTT西日本の選手たちとのふれあい教室などを毎年実施し、競技人口増と競技意欲の向上に努めたいと考えております。

(文責：副会長 須田雅昭)

JAAF 一般財団法人愛媛陸上競技協会

EHIME

〒790-0004 松山市大街道 3丁目6-2 岡崎第五ビル 501号室
TEL : 089-968-2229 FAX : 089-968-2231
<http://www.ehime-rikuijyo.jp/>

全国規模の駅伝が、去る20日の都道府県男子駅伝で終わりましたが、今年度の結果は、県ナンバー 38番のオンパレードで終わった昨年より少しずつ向上しました。その原動力になったのか中・高校生の方でした。国体を4年後に控え強化を急がなくてはならないこの時期に、少しずつ光明が見えるようになってきたと思います。その中でも、新居浜東中学女子の健闘は特筆すべきものがあり、陸上競技の素人集団が昨年優勝、今年連覇をねらって出場した全国中学駅伝で、残念ながら3位でしたが素晴らしい結果を残してくれました。女子都道府県駅伝でも活躍してくれましたが、全国で通用した脚腕を彼女たちが高校においてもよりレベルアップさせ、トラックやロードレースで披露してくれることを期待しております。(文責：専務理事 中山 桂)

JAAF NPO 法人 高知陸上競技協会

KOCHI

〒781-0311 高知市春野町芳原 2485 春野総合運動公園内
TEL : 088-841-9940 FAX : 088-841-9940
<http://npo-kochi.sports.coocan.jp/>

ロードレースシーズンさなですが、1月の都道府県男子駅伝では、20位という、好成績を残すことができました。中学生から一般までのタスキをつなぐ中で、各世代での頑張りが好記録を生み出しました。県下の小学生も全国大会で好成績を残しており、このまま陸上競技に関わりながら、成長を続けていけば、高知の陸上界にも明るい未来が開けてくると思われまます。そこで、大切なが指導者がかたです。体罰問題で論争されていますが、子どもたちに正しい指導ができ、模範たるべき行動ができる大人であることが求められます。

陸上競技に携わる、大人一人ひとりが、このことを考えていかねばならないと考えます。

JAAF 一般財団法人徳島陸上競技協会

TOKUSHIMA

〒772-0011 鳴門市撫養町大桑島字津浜 6-23
TEL : 088-678-7914 FAX : 088-678-7921
<http://tokuriku.web.infoseek.co.jp/>

全国都道府県対抗駅伝競走大会は1月13日に女子、1月20日に男子がそれぞれ京都・広島で開催され、徳島県チームは女子が34位、男子が28位という結果であった。レース前に掲げた目標順位を上回することは男女ともに達成することができなかったが、今後に向けて明るい展望も見られたように思う。中でも目を引いたのは、男子の熊井現選手・康選手の中学生双子コンビ(ともに国府中学校)の活躍である。2区を走った現選手は8分38秒で区間7位、6区を走った康選手は9分05秒で9位というすばらしい成績であった。彼らが同世代の長距離選手をひっぱりながら高校・一般と力をつけていくことで、本県の長距離・ロードがより活性化することを期待している。

(文責：事務局長 鈴木有二)

JAAF 福岡陸上競技協会

FUKUOKA

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 2-1-1 福岡朝日ビル B2F
TEL : 092-474-0002 FAX : 092-474-0002
<http://www.fukuriku.com/>

福岡陸上競技協会は、今年4月から一般財団法人化します。昨年11月に開催の年度の理事会と代表委員会に於いて、一般財団法人に移行後の新しい理事会と評議員が承認され、一般財団法人化に必要な「定款」の作成も陸連事務局のご指導のもと無事完成にこぎつけました。

次は、2月23日に開催する第27回福岡国際クロスカントリー大会に向けて準備を始めています。今回は、3月にポーランドで開催される第40回世界クロスカントリー選手権大会の代表選手選考会を兼ねての開催となります。昨年以上に、実業団の有力競技者や正月の箱根を湧かせた大学生の有選選手たちが出場してくれるものと期待しています。なお、大会公式ホームページは次の通りです。<http://www.mit.vc/>

(文責：総務部長 橋本 忠志)

JAAF 一般財団法人佐賀陸上競技協会

SAGA

〒840-0852 佐賀市中折町 10-18 高橋正秀様方
TEL : 0952-23-8961 FAX : 0952-23-8961
http://www.sagarikujyo.jp/

11月26日佐賀県で1回目の「キッズアスリート・プロジェクト〜夢の陸上キャラバン隊〜」が佐賀市立神野小学校を会場として開催された。

神野小学校卒業の廣瀬英行選手をはじめ日本のトップアスリート選手の実技、指導に、小学生たちは大変感激の様子であった。将来この子供たちが本県陸上のトップ選手となって活躍してくれることを期待したい。

12月に開催された全国高校駅伝男子、鳥栖工業高校は今年も昨年と同様の総合9位。入賞に一步届かず大変残念だった。来年にぜひ入賞を期待したい。

JAAF 宮崎陸上競技協会

MIYAZAKI

〒880-0022 宮崎市大橋2丁目6-1 ヤヨイビル5階
TEL : 0985-25-6011 FAX : 0985-25-6011
http://www.miyariku.org/

第2回目を迎えた「ひむかレディーストライアル」は、1月5日に種目を3種目(3000mを追加)に増やし開催した。宮崎や近県で合宿している実業団チームを中心に、中学、高校、大学と各世代の選手が参加した。注目は福士加代子選手(ワコール)や宮内洋子・宏子姉妹(京セラ)が出場した10000mであったが、福士選手が貫禄勝ちで33分4秒91で優勝した。年末の練習の成果を試す意味でも、次年度はさらに多くの選手の参加を切望する。

引き続き「宮崎県市町村対抗駅伝競走大会」を1月13日に開催した。今年大会も3回目となり、参加チーム数は過去最高の38チームが参加し、小・中・高校生から一般、40歳・50歳以上の計12区間を、郷土の期待と誇りを胸に健脚を競った。栄冠は、市郡の部は小林市A、町村の部は三股町Aが獲得した。

JAAF 長崎陸上競技協会

NAGASAKI

〒854-0061 諫早市宇都町 27-1 (社)長崎公園緑地協会管理事務
所分室内 TEL : 0957-21-1921 FAX : 0957-21-1921
http://jaaf-nagasaki.net

第69回国民体育大会(長崎がんばらん杯国体)を来年に控え、県立総合運動公園陸上競技場が2月中旬に完成し、審判用備品の搬入が行われ陸上の検定が実施されます。3月2日には全施設を無料開放しオープニング・イベント(こけら落とし)を開催します。本県出身のオリンピック選手の藤原新選手と森岡純一郎選手がゲスト出演の予定です。

その後、小学生男1000m女800m、中学生男女1500m、高校生男3000m女2000mをランキング上位15名による走り始めを行います。他にウォーキング大会、キャラバン隊による「長崎がんばらん大会」のPR、地元高校生によるマーチングバンド演奏、フィールドを利用して幼稚園児等による裸足で遊ぶような催事が予定されており、みんなで完成した陸上競技場を祝うことにしています。(文責:総務部長 藤島義信)

JAAF 鹿児島陸上競技協会

KAGOSHIMA

〒890-0062 鹿児島市与次郎 2-2-2 鴨池陸上競技場内
TEL : 099-259-6053 FAX : 099-259-6054
http://www3.synapse.ne.jp/karikupage/

1月の南日本長距離走大会で今年度の本協会主催競技会は、全て無事終了することができた。

登録事務については、全てインターネット(Web)登録を導入し、申込もメール申込を原則として、効率的で確実に業務を行うことができた。責任を持って、大会開催準備を行うため、大会開催に関する一連の流れをマニュアル化した。その成果として、全ての競技会がスムーズに進行し、大きなトラブル等もなく運営できた。その中で、県記録会を2回地方で実施し、審判員の養成、地方の活性化にもつながった。今年度を振り返ると、県大会出場者の増加と全国大会での選手の活躍など底辺の広がり競技力向上が実を結びつつある。これまでの反省を踏まえ、2013年度競技会の企画、スムーズな運営のあり方を策定しているところである。(文責:競技部長 西原正美)

JAAF 熊本陸上競技協会

KUMAMOTO

〒861-8046 熊本市石原 2-9-1 熊本県民総合運動公園内
TEL : 096-388-1688 FAX : 096-388-1688
http://www.kumariku.org/

この冬の全国高校駅伝と都道府県対抗駅伝は、男女とも県勢が冴って経験したことのない不本意な結果に終わった。1年後の奮起に期待したい。

2月17日開催の熊日30キロロードレースには、世界選手権でマラソンを走った「市民ランナーの星」川内優輝選手が出場予定。日本を代表する長距離ランナーたちが幾度となく更新してきた輝かしい記録を塗り替えることができるか。

金栗記念選抜陸上中・長距離熊本大会は4月6日、熊本市のKK-WINGで。トラックシーズンの幕開けとなる陸上界注目の大会。毎年、多くのトップランナーが好記録を生み出しており、今回も観衆を沸かせそうだ。

(文責:企画・広報部長 永廣 憲一)

JAAF 沖縄陸上競技協会

OKINAWA

〒900-0026 那覇市奥武山町 51-2 (財)沖縄県体育協会 3F
TEL : 098-851-7681 FAX : 098-851-7682
http://www12.ocn.ne.jp/~ork47/

平成24年度沖縄県体育協会の表彰規程により、日本インカレ男女ハンマー投優勝の知念雄選手(順大)、知念春乃選手(九共大)、日本ユース女子ハンマー投優勝の本村夏鈴選手(那覇西高)、アジアジュニア女子やり投銀メダルを獲得した島袋優美選手(国士館大) 投擲選手4名が表彰された。高校時代に全国トップレベルの選手が大学進学後も記録更新を続け活躍していることに刺激を受けた後輩たちが「次は私が日本一」を合い言葉に伝統を引き継いでいる。その背景には、陸協強化部と高体連専門部主催による①小・中・高校・大学一般合同の陸上教室②チーム及びブロックの合同練習③研修合宿④選抜県外合宿⑤県外からの沖縄合宿チームとの合同練習⑥その他が上げられる。今シーズンも飛躍を期して沖縄の選手は熱く燃えている。夢は沖縄からオリンピックへ!(文責:競技部長 知念信勝)

JAAF 一般財団法人大分陸上競技協会

OITA

〒870-0931 大分市西浜 1-1 大分市営陸上競技場 3F
TEL : 097-552-7808 FAX : 097-552-7806
http://www.d-b.ne.jp/oita-rik/

ロードシーズンだけなわの昨今ですが、本県においても、今月から来月にかけて新春恒例の「おおいシティハーフマラソン2013」をはじめ、「第62回別府大分毎日マラソン大会」及び5日間わたる「第55回記念県内一周大分合同駅伝競走大会」が開催されます。

とりわけ、去る1月14日に開催された、日本陸連公認・大分合同新聞社杯おおいシティハーフマラソン2013は、20都道府県及びラオス(5人)を含む男女1300人を超える史上最多のエントリーを誇りました。

当日は、生憎の雨と強風に見舞われましたが、競技者の頑張りと多くの方々のご支援ご協力により、無事盛會裡に終了することができました。年々、隆盛の一途をたどっており、今後とも、各種大会を通じて長距離ランナーの発掘と育成強化に努める所存です。(文責:理事長兼事務局長 濱本俊夫)

◇このページでは、各都道府県陸協から寄せられた情報を紹介しています。各陸協の掲載は3カ月に1回の頻度です。



新たなスタートを迎えて(専務理事 尾縣貢)	182
2013年シーズンに向けての抱負(理事・強化委員長 原田 康弘)	183
2013年シーズンに向けての抱負(強化委員会)	184
トラック・フィールド部門(強化委員長 原田 康弘)	
中距離・ロード部門(強化副委員長 酒井 勝充)	
強化育成部(強化副委員長 山崎 一彦)	
強化関連情報(強化委員会)	186
第97回日本陸上競技選手権大会参加資格について	
2013年度日本グランプリシリーズ招待基準と招待選手について	
第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ)参加標準記録および 派遣設定記録突破者一覧	
JAAFコーチ養成講習会専門科目講習会報告(普及育成委員会 櫻田 淳也)	189
2012年度U-15トップトレーニングキャンプ報告 (普及育成委員会 舟橋 昭太)	190
2012年度全国自転車計測員会議報告(施設用器具副委員長 平塚 和則)	192
IAAFから各国陸連等に発信される通達文書一覧	193
大会観戦ガイド	194
陸協NEWS	196
事務局からのお知らせ	198

陸連時報編集委員

◇編集委員

- 河野 洋平 (陸連会長)
- 横川 浩 (陸連副会長)
- 三宅 勝次 (陸連副会長)
- 澤木 啓祐 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 原田 康弘 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

森 泰夫

◇時報編集担当

- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 本田香代子
- 森谷 真咲

事務局からのお知らせ

◆◇事務局が移転致しました◆◇

2012年12月17日より、事務局が下記に移転致しました。

新所在地

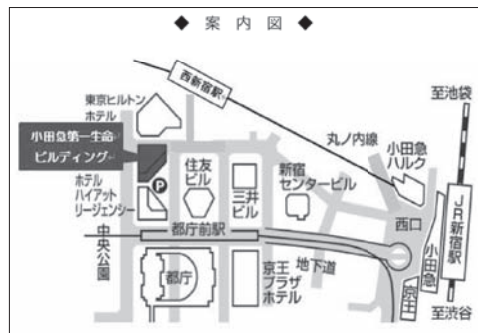
〒163-0717 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル17階

電話番号：03-5321-6580 FAX番号：03-5321-6591

アクセス JR / 小田急線 / 京王線新宿駅西口 徒歩10分

都営地下鉄大江戸線都庁前駅 A7出口徒歩2分

東京メトロ丸ノ内線西新宿駅 2番出口徒歩5分



公 告

「陸連時報」は、公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願いいたします。公益財団法人 日本陸上競技連盟

陸連時報編集室

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

公益財団法人日本陸上競技連盟事務局 内

TEL 03-5321-6580

FAX 03-5321-6591

ホームページ <http://www.jaaf.or.jp/>

公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>